田原谷遺跡現地説明会資料

平成19年3月11日(日)

松　江　市　教　育　委　員　会
財団法人松江市教育文化振興事業団

1．はじめに

田原谷遺跡は松江市春日町455－1他に所在し、現況は山林です。

松江市土地開発公社の宅地造成計画に伴い、松江市教育委員会が平成14年に分布調査、平成16年に試掘調査を行ったところ、土壙墓や溝、ピットなどが検出され、土師器、須恵器、陶磁器などが出土したことから、平成18年度に本調査を行うことになったものです。

発掘調査は平成18年6月から平成19年3月に実施し、調査面積は約1,100㎡です。

2．検出した主な遺構

北側頂部平坦面から西裾にかけて、古墳時代前期の土壙墓群（SX01～03）や石で蓋をした墓壙（SX04）、土器棺墓（SK03）、墓域への道と考えられる溝状遺構（SD02）、焼土壙などが発見されました。

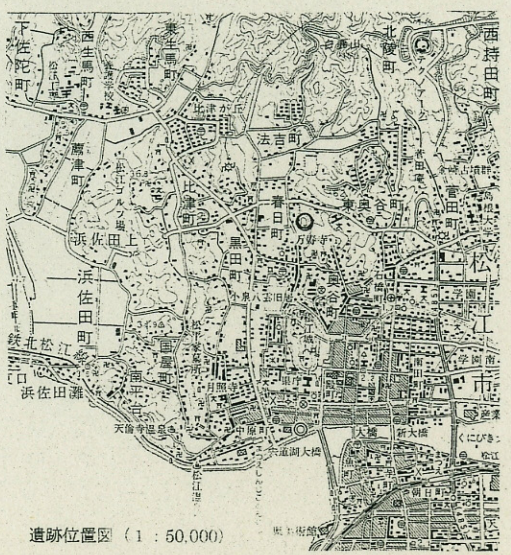
南側頂部平坦面では墓壙の残欠（SX07）、土器棺墓（SK06）、墓域を区切る溝（SD04）など古墳時代前期の遺構のほか、後世に平坦面を作り、そこに掘り込まれた楕円形のピットや土壙、時期不明の道（SD03）などが見つかり、頂部南東裾では赤土を埋めたピット列、深い土壙（SK13）、掘立柱建物跡（SB01、02）など中近世の遺構が発見されました。SB01は2間（3.3m）×3間（5.5m）の建物跡で、東側と西側柱列のうち、真中の柱がやや外側に出ているようにも見えます。柱穴は楕円や長楕円形をしています。

3．出土した主な遺物と出土状況

- ○ 土壙墓SX02の上には鼓形器台や高坏、甕などの土器が供えてありました。
- ○ 土壙墓SX03の底面からは鎌の可能性のある鉄製品が出土しました。
- ○ 土器棺墓SK03には土師器の壺が斜めに寝かせて入れてありました。
- ○ 土器棺墓SK06には土師器の甕・壺・甕の3個体が横倒しになり、重なった状態で出土しました。壺の底部を抜いて一つながりの棺にしたもののようです。
- ○ 掘立柱建物跡SB01の覆土層や周辺からは肥前系陶器の擂鉢片や中世にさかのぼる可能性のあるかわらけなどの土器類、鉄釘・かすがいなどの鉄製品が出土しましたが、土器は擂鉢を除けばかわらけがほとんどで、生活の匂いが感じられません。
- ○ 北側頂部の西裾には旧表土が残っていて、この土層から奈良時代の須恵器類（蓋・坏・壺など）が出土しました。この時期の遺構は見つかっていません。
- ○ 遺構に伴わない遺物として、近世以降の陶磁器類、古銭（寛永通宝）なども出土しています。

4．おわりに

田原谷遺跡は主に二つの時期に分けられます。一つは今からおよそ1,700年前の古墳時代前期であり、もう一つは中世～近世です。



遺跡位置図（1：50,000）

古墳時代前期には調査地全体が墓域であったことが調査結果からうかがえます。現在では北側頂部も南側頂部も平坦になっていて、SX07以外は平坦面の端のほうにだけ墓壙が見られますが、当時は真中に墳丘を持つ古墳があったかもしれません。

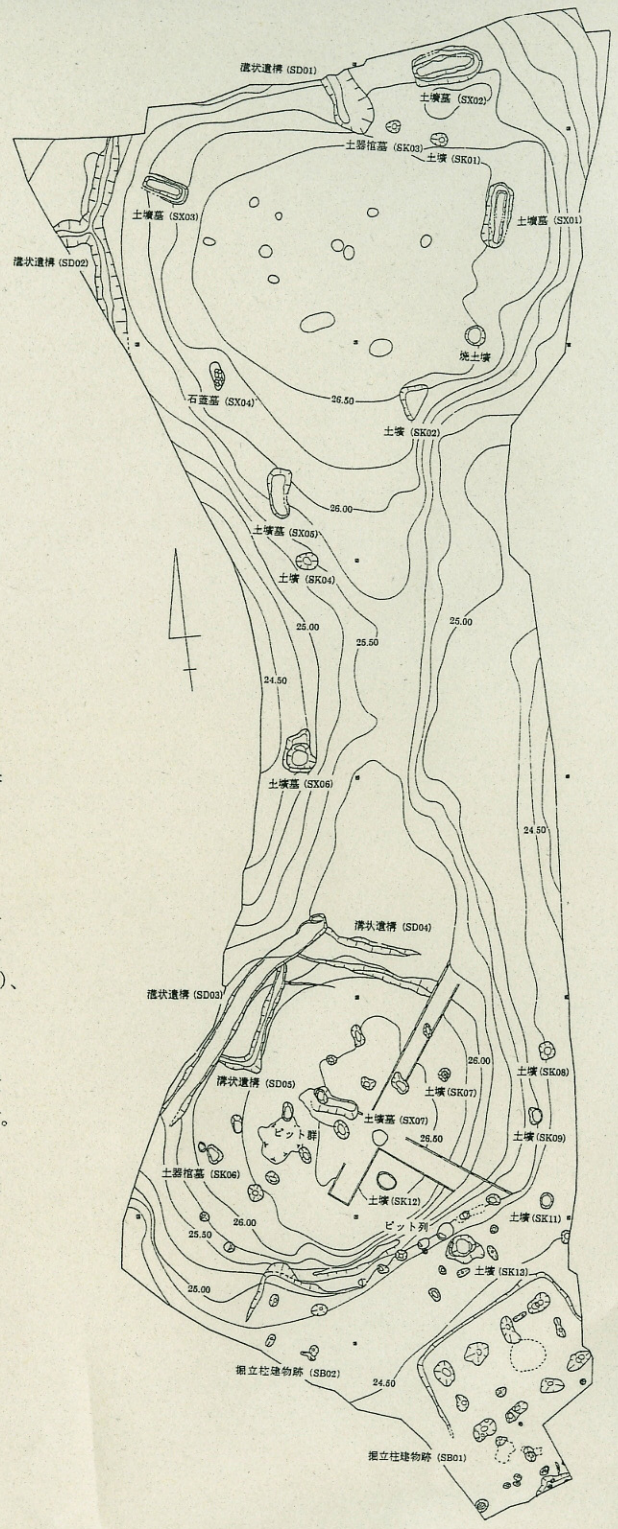
中世～近世頃には、南側頂部から南東裾にかけて造作された痕跡があり、南側頂部の楕円形ピットや南東裾の赤土を入れて埋めたピット列、深い土壙（SK13）、掘立柱建物跡（SB01,02）、点在する用途不明の土壙（SK07～11）などが同一空間の遺構として認識できます。

この田原谷には古くは風土記に記載された田原社があり、近世に奥谷に移された田原神社の元宮があったといわれています。（内田　映『法吉村誌』昭和63年）

参考例として、加茂町の大崎元宮遺跡では加茂神社の元宮伝承地が調査され、2間(4m)×3間(5.8m)の掘立柱建物跡が出ています。柱穴はやはり長楕円形で、周辺の出土遺物から中世の建物跡とされています。

（加茂町教育委員会『大崎元宮遺跡』2004年）

本遺跡の掘立柱建物跡SB01についても、今後田原神社元宮との関連など探っていくとおもしろいのではないかと思われます。



田原谷遺跡調査成果図（1：250）